

現状や問題点

- ・やりたい仕事、魅力ある仕事が少ない
- ・継続して働ける職場が少ない
- ・安定した収入を得ることが難しい（給料・賃金が安い、ボーナスがない）
- ・休日が少ない
- ・大学を卒業した後の就職先が不足
- ・安定した仕事がないという事だが、実は仕事はたくさんある
- ・マーケットが小さい
- ・日田独特の事業を行っている企業が少なく
- ・1人あたりの生産額、総生産額の減少
- ・物価が高い
- ・家賃が高い
- ・人（若い人）が少ない
- ・他から人が来ない
- ・専門学校がない
- ・ハローワークが利用しにくい
- ・ジョブカフェにジョブコーチがいらない
- ・高齢者が多いが働く場所が不足
- ・農業の後継者不足
- ・介護難民（高齢者の一人暮らし、夫婦暮らし）
- ・日田は良いものがあるのに広告宣伝力が弱い
- ・休日を楽しめる場所がない
- ・福岡都市圏に近い
- ・都会の仕事にあこがれる

主な意見やアイデアなど

企業誘致

- ・今まで労働力と見ていない人を見直しては？
- ・日田以外に広がる事業や大手企業の誘致
- ・大型商業施設がほしい
- ・石井工業団地、ウッドコンビナートの活用案

起業支援

- ・子どもと一緒に出勤できること
- ・起業をサポートするシステム
- ・福祉の行動、社会とのつながりを重視した起業
- ・新しい芽を摘まない支援が必要
- ・起業しても支援は2～3年しかもたない（継続育成の支援）
- ・皆がその企業を使う
- ・企業連携
- ・地場産業の育成
- ・地域を活かした仕事の創造
- ・日田の水は地下水なので最大限利用
- ・日田水を海外に売る（生産性UP、税収UP）

農業

- ・人口減によりマーケットが縮小していることから、県外・海外への販路拡大
- ・農業の6次産業化
- ・まだ元気な高齢者の受け入れ（農業したい）
- ・耕作放棄地の利用で農業者を増やす

福祉

- ・福祉の視点からのまちづくり
- ・「夢のみずうみ村」のノウハウを入れた施設の展開
- ・ユニバーサルデザインツーリズムの観光開発
- ・障がい者雇用（事業所との理解を深める場所をつくる）
- ・お金持ちの健康なシルバー世代の（有料）移住コンシェルジュ
- ・元気な高齢の方の移民（都会に住みたくない）
- ・福祉の町に
- ・障がい者が生産者になれる視点を

林業

- ・日田の林業の活性化、ブランド化
- ・林業、家具、住宅の設計士・建築士を育成する専門学校の創設
- ・若者に幼いときから林業のすばらしさに触れてもらう
- ・木育

仕事の相談体制

- ・パートの連携を増やす
- ・自分がどんな仕事をしたいか？移したいか？
- ・雇用主になりたいか？雇われ人になりたいか？

観光

- ・自然エネルギーを観光に
- ・暑さ日本一
- ・小鹿田焼
- ・人口増は難しいとしても交流人口を増やす
- ・すいか食べ放題、なし食べ放題、ぶどう食べ放題
- ・豆田、隈の連携
- ・進撃の巨人

PR・宣伝

- ・日田の良いところを全国にアピールする
- ・天ヶ瀬(温泉)等が福岡などより注目されている
- ・若者向けのSNS、ゆるキャラ

その他

- ・市内に専門学校を
- ・日田をホームタウンとして仕事は外です（住む人にインセンティブを）
- ・都会の仕事を知りたい若者の支援（10年後帰ってくるため）
- ・日田ならではの町づくり（江戸に目を向けたまちづくり）
- ・業種間、同業者間の連携
- ・雇用されることに頼らない生活への意識改革
- ・江戸カフェ（着物）
- ・移住コーディネーター
- ・技術者育成
- ・銀行がキーマン
- ・てこになる人たち（高齢者に知恵を借りる）

発表

① 都市部（福岡都市圏等）からシルバー世代の移住者を招き入れて、雇用の場を創出する。

- ・健康対策、福祉の視点から、雇用の場の創出につなげていくことが必要。
- ・行政と民間のバックアップが不可欠。
- ・介護関連の経営者との連携も必要。
- ・最大の問題は、賃金の問題（日田は低賃金）をどうするか。

② 起業家を支援していく仕組みづくり

- ・大企業の誘致は期待していない。（企業の都合でいつ撤退するかわからないため）
- ・行政だけでなく、銀行のバックアップも必要（横のつながりを広げていく）
- ・「自分で仕事を見つけて稼ぐ人」、「多様な起業家」を支えていく仕組みづくりが必要。

③ 地域資源を活かした産業づくり

- ・日田には良いもの（地域資源）がたくさんあるが、それを業として外にアピールしていく力が弱すぎる。
- ・もっと外に売れる商品をつくり、アピールしていくことが重要。